

市長の伊賀じまん

— 歴史と思い出を育む^{まな}学び舎^や —



桜が咲く季節になりましたね。

桜を見ると、合格発表や入学式・卒業式などの場面がよみがえってくる人も多いのではないのでしょうか。学校での思い出は心に刻まれ、皆さんの生活の中に生きています。

伊賀市役所本庁舎がある通りには、西から東に向かって、崇広中学校、江戸時代の藩校「旧崇広堂」、白垂の校舎が美しい上野高等学校明治校舎（旧三重県第三尋常中学校）、上野西小学校が立ち並んでいます。また、上野高等学校の北西に位置し、現存する中で県内最古の小学校建築「旧小田小学校」は、明治時代のものです。さまざまな時代の学校建築をみることが



この通りは崇広堂が建てられた当時、大名小路と呼ばれていました。大名小路と本丸の間（現在の上野

高等学校、上野西小学校、市役所がある場所）には「扇の芝」と呼ばれる場所
◀現在の市役所本庁舎前の通り。右上写真の頃から道幅が変わっていません。

▶市役所本庁舎前の通り。（明治5年）
（伊賀郷土史研究会蔵）



があり、師弟たちが武術訓練などに励んでいました。

三重県第三尋常中学校は、明治32（1899）年に地元の強い熱意によって設立されました。教育熱心な地域であったことがわかります。この校舎からは卒業生として、ユダヤ人難民の日本運行手配に尽力した高久甚之助氏、作家の横光利一氏、書道家の榊莫山氏らの才能豊かな人々が巣立っていきました。

通り沿いの建物を見て歩きながら、先人を偲び、学校建築群からその歴史を体感することもまた趣深いことです。

小学校は、子どもたちの学び舎であると共に、地域の絆づくりのための核となる場所です。どの校舎も、それぞれの思いがこもった建物ですので、地域の自慢となっていってほしいと考えます。

今春は校区再編による統廃合で、新しい学校での生活が始まる子どもたちも多いことでしょう。子どもたちが、新しい学び舎でまた新たな伊賀の歴史を刻んでくれることを期待しています。

（伊賀市長 岡本 栄）

防災ねっと

「大丈夫なはず」が災いするとき

平成25（2013）年8月8日の夕刻、近畿地方を中心に「緊急地震速報」が発表されました。皆さんは、適切に行動できましたか？ほとんどの人が行動できなかったのではないのでしょうか。

人は、予想していないことに突然直面すると、頭の中が真っ白になり思考が停止してしまいます。これは「凍りつき症候群」と呼ばれ、思考停止の持続時間はさまざまですが、ほとんどの人が経験します。

また、異変に直面したとき、無意識のうちに“大丈夫なはず”“大したことはない”と期待する本能が働くことがよくあり、これらの性質は「正常性のバイアス*1」「集団同調性のバイアス*2」と呼ばれています。

バイアスとは、「偏見・先入観・思い込み」という意味で、異常事態時の人々の行動に大きく影響を及ぼしています。これらは、人が生きていくうえでのストレスを回避する自然な心理的反応です。

このような心理反応を冒頭の「緊急地震速報」に当てはめると、まず①突然大きな音のアラームが鳴ったことで思考が停止し、思考が回復しても②周囲の人と

備えて！
安心！



目を見合わせ、周囲の行動を確認し、さらに、自分だけが行動を開始することをためらい、周囲と同調することで安心を得、次に③“きっと大したことはない、大丈夫なはず”と思い込み、結果“無行動”との状況ではなかったでしょうか。

災害時に大切なことは、“平常”から“非常”への心の切り替えです。そのタイミングはいつか、そのときはどのように行動するのかを普段から考えておくことが命や財産を守ることに繋がります。

*1…正常性バイアス…日常生活で生じるさまざまな変化や出来事の全てに過敏に反応していると、心の平穏を保つことが難しくなることから、多少の異常事態が起こってもそれを正常の範囲内として捕らえる反応

*2…集団同調性バイアス…周囲と同調することで安心感を得る性質

【問い合わせ】

総合危機管理課 ☎ 22-9640 FAX 24-0444

伊賀警察署だより



山での遭難にご注意を！

近年の登山ブームから登山客の遭難が多発し、特に中高年者を中心に増加傾向にあります。

平成26年中、県内での山岳遭難発生件数は69件で、87人が遭難し、その内6人が亡くなりました。遭難者87人中65人(74.7%)が40歳代以上の中高年者でした。登山を計画している人は、山での遭難を防ぐために、次のことに注意しましょう。

- 自分の体力や経験に応じた山やコースを選ぶ
 - 単独での登山はなるべく避け、グループでの登山を心がける
 - 体調が悪くなったり、危険を感じたら登山を中止する
 - 雨具や非常食を携行する
 - 登山計画を家族に知らせておき、登山計画書を所属山岳会や警察署などへ提出する
- ※登山計画書は三重県警察ホームページからダウンロードできます。

【問い合わせ】 伊賀警察署 ☎ 21-0110
名張警察署 ☎ 62-0110

公共交通を利用しましょう

みんなごと
1乗ろう

便利な「合冊版時刻表」をご活用ください

市では、春のダイヤ改正時期にあわせて、市内の鉄道路線をより便利にご利用いただくため、各鉄道路線の連絡時刻が分かるポケットサイズの時刻表を作成しています。

内容はJR関西本線(亀山～加茂)、伊賀鉄道伊賀線、近鉄大阪線(伊賀神戸・青山町・伊賀上津・西青山・名張・桔梗が丘駅掲出)の時刻表やお帰りに便利な乗り継ぎ時刻表を掲載しており、柘植駅、伊賀上野駅、



伊賀神戸駅などでの乗り継ぎが分かりやすいものになっています。巻末には、上野コミュニティバス「しらすぎ」の時刻表も載せています。

4月6日(月)から、市役所本庁舎や各支所・各地区市民センター・上野市駅などで配布しますので、ぜひご利用ください。

【問い合わせ】
総合政策課 ☎ 22-9663 FAX 22-9672

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

ハンセン病・HIV感染症を誤解していませんか —健康推進課—

■このコラムは毎回いろいろなテーマで人権についてお話しています。

病気に対する正しい知識や情報の不足からくる病气への強い恐怖感が原因で、患者や感染者が偏見や差別を受けていることがあります。ハンセン病やHIV感染症は、人から人へうつる病気ですが、日常生活での接触でうつることはほとんどありません。

ハンセン病はらい菌による慢性の感染症ですが、感染力が非常に弱く、発病しても早期治療すれば後遺症もなく治り、遺伝する病気ではありません。しかしハンセン病は、1996(平成8)年に「らい予防法」が廃止されるまで、患者が療養所に隔離され、後遺症が残る遺伝病と誤解をうけ、差別や偏見の対象となっていました。病気が治った現在でも、療養所生活を余儀なくされている人がいて、ハンセン病療養所の入所者であることを理由に宿泊を断られたという差別事件が起こったこともあります。

エイズは、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)による感染症ですが、HIVに感染してもすぐにエイズを発

症するわけではありません。HIVの感染経路は、性的接触、血液感染、母子感染の3つに限られており、プールやお風呂に一緒に入ったりするといった日常生活の接触では感染しません。せきやくしゃみでもうつりません。最近では、治療薬の開発が進み感染を早期発見・早期治療することでエイズの発症を抑えることができるようになってきました。しかし、エイズについても、感染経路の誤解や治療法がない怖い病気というイメージから偏見がまだまだ残っています。

「よく分からないけど怖い病気のようなだから」とか「自分には関係ないから」と距離を置くことにより、差別や偏見が生まれています。こうした差別や偏見をなくするには、まず、病気への誤った認識を正すことが必要であり、一人ひとりが、ハンセン病やHIVについて正しい知識を持ち、患者・元患者やその家族などが置かれている立場をよく理解することが大切ではないでしょうか。